

学習・第2回 詩の種類について考える ①

◆ 今日の学習のポイント ◆

『詩』は、リズムを持つ形式の文章ですが、

- | | | |
|-----------|-----|--------------------------|
| 「用語」によって、 | 口語詩 | ・ 現在使われている用語で書かれた作品 |
| | 文語詩 | ・ 昔使われていた（古文）の用語で書かれた作品 |
| 「形式」によって、 | 自由詩 | ・ 音数・行数に決まりがなく、自由に作られた作品 |
| | 定型詩 | ・ 音数・行数に一定の決まりがある作品 |

に分類することが出来ます。

◇ 基礎トレーニング ◇

- (1) つぎのA・Bの詩の用語は【①口語 ②文語】、形式は【③自由詩 ④定型詩】のどれになりますか。

A たつぷりと 春の河は ながれてゐるのか ゐないのか ういてゐる 藁くづのごくくので それと知られる	B あかしゃの金と赤とがちるぞえな。 かはたれの秋の光にちるぞえな。 片恋の薄着のねるのわがうれひ。 「曳舟」の水のほとりをゆくころを。 やはらかな君が吐息のちるぞえな。 あかしゃの金と赤とがちるぞえな。
---	---

- (2) つぎの①～⑤の項目は、右のA・Bのどちらの詩に当てはまるか考えましょう。

- ① 声を出して読むと、こちらの詩のほうが歌っているようだ。
- ② やさしい言葉で書かれているので、情景を想像しやすい。
- ③ 昔の言葉で書かれているので、意味が分かりにくい。
- ④ 五・七・五の繰り返しだが、一定のリズムを作り出している。
- ⑤ ふだん見かける文のようだが、改行や音（文字）の繰り返しで、詩の雰囲気を出している。

□ 『詩って何？ 俳句って？』 学習第2回 詩の種類を考える ②

◇ 補充トレーニング ◇

次にあげた詩の、用語【①口語 ②文語】と、形式【③自由詩 ④定型詩】はどれになりますか。

春のやよいの あけぼのに

ふじは日本一の山

四方の山べを みわたせば

【小学唱歌 ふじの山】

花盛りかも しら雲の

雨ニモマケズ

かからぬ峰こそ なかりけれ

風ニモマケズ

【小学唱歌 春のやよい】

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

うさぎ うさぎ

丈夫ナカラダヲモチ

なに見てはねる

欲ハナク

十五夜お月さま

決シテ瞋ラズ

見てはねる

イツモシズカニワラツテヤル

【小学唱歌 うさぎ】

宮沢賢治【雨ニモマケズ】より】

我は海の子白浪の

ねころんでいたらば

さわぐいそべの松原に

うまのりになっていた桃子が

煙たなびくとまやこそ

そつとせなかへ人形を乗せていってしまった

我がなつかしき住家なれ

歌をうたいながらあつちへいってしまった

【小学校唱歌 我は海の子】

そのささやかな人形のおもみがうれしくて

あたまを雲の上に出し

はらばいになったまま

四方の山を見おろして

胸をふくらませてみたりつぼめたりしていた

かみなりさまを下にきく

【八木重吉人形】

□ 『詩って何？俳句って？』 学習・第2回 詩の種類を考える ③

◇ 向上トレーニング ◇

(1) 前の「詩の種類を考える」② で学習した 次の六つの詩にふさわしい説明文を左の①～⑤から選びましょう。一つの説明文を何回選んでもかまいません。

【小学校唱歌 春のやよい】

【小学校唱歌 うさぎ】

【小学校唱歌 ふじの山】

【宮沢賢治 「雨ニモマケズ」より】

【八木重吉 「人形」】

《説明文》

- ① 声を出して読むと、こちらの詩のほうが歌っているようだ。
- ② やさしい言葉で書かれているので、情景を想像しやすい。
- ③ 昔の言葉で書かれているので、意味が分かりにくい。
- ④ 五・七・五の繰り返しだが、一定のリズムを作り出している。
- ⑤ ふだん見かける文のようだが、改行や音（文字）の繰り返しで、詩の雰囲気を出している。

(2) これまで、詩を「用語」によって口語詩と文語詩に、「形式」によって、自由詩と定型詩に分類してきました。

あなたは「口語自由詩」「口語定型詩」「文語自由詩」「文語定型詩」のうち、どの詩が一番好きですか。その理由も考えてみましょう。